

五 泉 市 中小企業景況調査報告書

(令和8年7月～9月期)

調 査 対 象 業 種

業 種	対象数	回答数	回収率(%)
製 造 業	7	7	1 0 0
建 設 業	7	7	1 0 0
小 売 業	1 4	1 4	1 0 0
サービス業	7	7	1 0 0
合 計	3 5	3 5	1 0 0



五 泉 商 工 会 議 所
五 泉 中 小 企 業 相 談 所

五泉市内中小企業景況調査報告（令和8年7月～9月期）

当所では、令和8年8月下旬に実施した景況調査の結果をまとめました。
この調査は、市内企業の景況動向を把握し、各企業の経営の参考にしていただくもので、
四半期ごとに実施しています。
(集計結果は小数点以下の処理の関係で、計値が100%にならないものがあります)

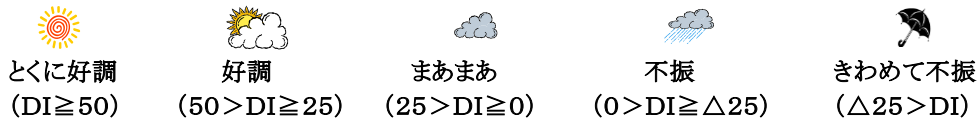
概 況

DI値：(景況判断指数)

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向の回答割合が多いことを示し、
マイナスの値で景気の下向き傾向の回答割合が多いことを示す。従って、売上高な
どの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広が
りを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

景気天気図



業況判断(今期水準)

	令和6年 7～9月期	10～12月期	令和7年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	令和8年 1～3月期	4～6月期	7～9月期
製 造 業	 △29	 △50	 △29	 △83	 △43	 △86	 △15	 △29	 △57
建 設 業	 △29	 △57	 △67	 △43	 △57	 △57	 △43	 △71	 △57
小 売 業	 △43	 △57	 △64	 △43	 △57	 △50	 △43	 △36	 △36
サービス業	 15	 △28	 △71	 △29	 0	 △16	 △29	 △15	 0

【説明】

『製造業』のDI値は△57で、前回調査から28ポイント悪化した。今期の経営上の問題点は、「原材料価格の上昇」が24%、「需要の停滞」が19%、「人件費の増加」、「製品(加工)単価の低下・上昇難」がそれぞれ14%、「生産設備の不足・老朽化」が10%を占めた。DI値は大幅に悪化しており、原材料価格の高騰や人件費の増加、需要の停滞が再び景況感を大きく押し下げる結果となっている。

『建設業』のDI値は△57で、前回調査から14ポイント改善した。経営上の問題点は、「材料価格の上昇」が24%、「民間需要の停滞」が19%、「従業員の確保難」が14%、「請負単価の低下・上昇難」、「下請業者の確保難」がそれぞれ10%を占めた。依然としてマイナス幅は大きく厳しい水準が続くものの、持ち直しの動きが見られる。

『小売業』のDI値は△36で、前回調査から横ばいとなった。経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」、「購買力の他地域への流出」、「人件費以外の経費の増加」がそれぞれ12%、「消費者ニーズの変化への対応」、「人件費の増加」、「需要の停滞」がそれぞれ9%を占めた。仕入単価の上昇や購買力の流出、ニーズ変化への対応が引き続き重石となり、景況感の停滞が続いている。

『サービス業』のDI値は0で、前回調査から15ポイント改善した。経営上の問題点は、「材料等仕入単価の上昇」が32%、「人件費の増加」が16%、「店舗施設の狭隘・老朽化」、「利用者ニーズの変化への対応」、「利用料金の低下・上昇難」がそれぞれ11%という結果になった。材料価格の高騰や人件費・経費の増加が利益幅を圧迫しているものの、景況感は着実に持ち直しを見せている。

総括として、今回の調査では業種間での景況感の二極化がより鮮明に表れる結果となった。サービス業のDI値が0まで回復し、建設業においても最悪期を脱するような持ち直しの兆しが見られる一方で、製造業のDI値は再び大幅な悪化に転じており、小売業も足踏み状態が続いている。全業種を俯瞰すると、「原材料・材料・仕入単価の上昇」が依然として経営上の課題の首位を占めており、これに「人件費の増加」が加わる形で、コスト高騰が全産業共通の重石として企業の利益幅を著しく圧迫している。

売上額、生産額、完成工事額の動向

	令和6年 7～9月期		10～12月期		令和7年 1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期		令和8年 1～3月期		4～6月期		7～9月期	
	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比
製 造 業	△43	57	△50	△50	△15	15	△67	△67	0	△29	△43	△14	15	△29	△29	△43	△14	29
建 設 業	△15	△29	△43	△71	△33	△17	△14	△43	△57	△43	△15	△43	14	△15	△29	△29	△71	△29
小 売 業	△29	△57	△15	△15	△36	△57	△43	△7	△36	△50	△21	0	△15	△29	△29	△22	△28	△21
サービス業	43	43	0	△29	△28	△71	0	14	△14	0	△33	△33	△15	△29	△29	14	0	14

【説明】

『製造業』のDI値は前年同期比△14ポイントで、前回調査から15ポイント改善した。「売上額(加工)」は、前年同期比で“増加”が29%、“減少”が43%となった。「売上単価(加工)」については、前年同期比で“上昇”が29%、“不変”が57%という結果。約6割が単価を据え置いている(低下も14%)ため、原材料仕入単価の上昇(100%)が続く状況下では利益の圧迫が今後も懸念される。

『建設業』のDI値は前年同期比△71ポイントで、前回調査から42ポイント悪化した。「完成工事額(請負工事)」は前年同期比で“増加”が29%、“減少”が71%。「受注額」は“増加”が43%、“減少”が57%となった。この結果は、建設業を取り巻く環境が引き続き厳しい状況であることを物語っている。

『小売業』のDI値は前年同期比△28ポイントで、前回調査から1ポイント改善した。「売上額」は前年同期比で“増加”が29%、“不変”が14%、“減少”が57%となり、“減少”と答えた企業が半数を超えた。「商品仕入単価」が前年同期比で“上昇”と回答した企業は50%であり、来期も“上昇”を見込んでいる企業が71%で、今後も上昇傾向が続くと懸念されている。また「採算(経常利益)」も“悪化”が57%と苦しい状況が続いている。

『サービス業』のDI値は前年同期比0ポイントで、前回調査から29ポイント改善した。「売上(収入)額」は、前年同期比で“増加”が29%、“不変”が43%、“減少”が29%。「仕入単価(材料等)」については、前年同期比で“上昇”が100%となり、依然として厳しい状況にある。

設備投資の状況(今期)

(単位：%)

	令和6年 7～9月期	10～12月期	令和7年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	令和8年 1～3月期	4～6月期	7～9月期
製 造 業	29	17	14	0	14	14	29	14	29
建 設 業	14	14	0	14	29	14	14	14	14
小 売 業	0	0	14	21	14	7	7	7	21
サービス業	14	0	14	29	29	17	14	29	14

【説明】

『製造業』は今期、車両運搬具、付帯施設、その他に設備投資を実施した企業が2件、来期の設備投資を行う予定の企業はない。

『建設業』は今期、建設機械、OA機器に設備投資を実施した企業が1件あり、来期の設備投資を行う予定の企業はない。

『小売業』は今期、店舗、販売設備、付帯施設に設備投資を実施した企業が3件あり、来期は店舗、車両運搬具、付帯設備、OA機器に設備投資を行う予定の企業が1件ある。

『サービス業』は今期、建物、サービス設備、その他に設備投資を実施した企業が1件あり、来期は建物、サービス設備に設備投資を行う予定の企業が2件ある。

製造業

(令和8年7月～9月期)

※前年同期比(R7年7月～9月期)に比べて
前期比(R8年4月～6月期)に比べて

来期(R8年10月～12月期)の見通し
今期(R8年7月～9月期)

		□増加	□不变	□減少
売上額 (加工)	前年同期比	29%	29%	43%
	前期比	43%	43%	14%
	来期	43%	29%	29%

		□上昇	□不变	□低下
売上単価 (加工)	前年同期比	29%	57%	14%
	前期比	29%	71%	
	来期	43%	43%	14%

		□増加	□不变	□減少
売上数量 (加工)	前年同期比	29%	29%	43%
	前期比	43%	43%	14%
	来期	43%	29%	29%

		□好転	□不变	□悪化
資金繰り	前年同期比	86%		14%
	前期比	86%		14%
	来期	100%		

		□上昇	□不变	□低下
原材料 仕入単価	前年同期比	100%		
	来期	86%		14%

		□増加	□不变	□減少
原材料 在庫数量	前年同期比	29%	71%	
	来期	29%	71%	

		□過剰	□適正	□不足
生産に対する 原材料在庫	今期	14%	86%	

		□増加	□不变	□減少
製品在庫 数量	前年同期比	14%	71%	14%
	来期	14%	71%	14%

		□過剰	□適正	□不足
売上に対する 製品在庫	今期		86%	14%

		□好転	□不变	□悪化
採算 (経常利益)	前年同期比	57%		43%
	来期	86%		14%

		□黒字	□収支トントン	□赤字
採算(水準)	今期	71%		29%

		□増加	□不变	□減少
従業員(臨時 パートを含む)	前年同期比	14%	86%	
	来期	14%	86%	

		□過剰	□適正	□不足
従業員(水準)	今期	14%	71%	14%

		□上昇	□不变	□低下
設備操業率	前年同期比	29%	43%	29%
	来期	29%	43%	29%

		□過剰	□適正	□不足
生産設備 (水準)	今期	71%		29%

		□増加	□不变	□減少
引合い	前年同期比	14%	57%	29%

		□活発	□ふつう	□低調
引合い(水準)	今期	14%	43%	43%

		□増加	□不变	□減少
受注残	前年同期比	86%		14%

		□好転	□不变	□悪化
業況	前年同期比	57%		43%
	前期比	86%		14%
	来期	71%		29%
	来期(今期比)	14%	71%	14%

		□良い	□ふつう	□悪い
業況(水準)	今期	43%		57%

		□長期化	□不变	□短期化
受取手形期間	前期比	100%		
	来期(今期比)	100%		

		□容易	□不变	□困難
長期資金 借入難度	前期比	80%		20%
	来期(今期比)	80%		20%

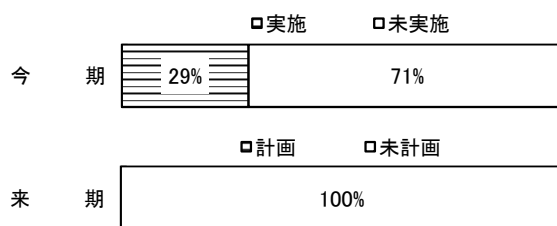
		□容易	□不变	□困難
短期資金 借入難度	前期比	80%		20%
	来期(今期比)	80%		20%

		□上昇	□不变	□低下
借入金利	前期比	33%	67%	
	来期(今期比)	33%	67%	

【説明】

製造業の業況は、前年同期比で「不变」が57%と半数以上を占める一方で、「悪化」が43%（「好転」は0%）となり、依然として楽観視できない状況にある。来期（令和8年10月～12月期）の見通しにおいては「不变」が71%、「悪化」が29%となっており、慎重な姿勢が続いている。採算（経常利益）については、来期の見通しで「悪化」が14%にとどまっているものの（「不变」が86%）、採算（水準）においては今期「収支トントン」が71%、「赤字」が29%を占めており、利益確保に向けた厳しい経営環境は継続している。

◎新規設備投資



今期回答数	投 資 内 容	来期回答数
0%	土 地	0%
0%	工 場 建 物	0%
0%	生 産 設 備	0%
33%	車 両 ・ 運 搬 具	0%
33%	付 帯 施 設	0%
0%	O A 機 器	0%
0%	福 利 厚 生 施 設	0%
33%	そ の 他	0%

◎今期直面している経営上の問題点

問 題 点	割合	問 題 点	割合
大企業の進出による競争の激化	5%	製品(加工)単価の低下・上昇難	14%
新規参入業者の増加	0%	金利負担の増加	0%
製品ニーズの変化への対応	5%	取引条件の悪化	0%
生産設備の不足・老朽化	10%	事業資金の借入難	5%
生産設備の過剰	0%	従業員の確保難	0%
原材料価格の上昇	24%	熟練技術者の確保難	0%
原材料の不足	0%	需要の停滞	19%
人件費の増加	14%	その他	0%
原材料費・人件費以外の経費の増加	5%		

建設業

(令和8年7月～9月期)

※前年同期比(R7年7月～9月期)に比べて
前期比(R8年4月～6月期)に比べて

来期(R8年10月～12月期)の見通し
今期(R8年7月～9月期)

		□増加	□不変	□減少
完成工事額 (請負工事)	前年同期比	29%	71%	
	前期比	71%		29%
	来期	14%	57%	29%

		□好転	□不変	□悪化
資金繰り	前年同期比	71%		29%
	前期比	86%		14%
	来期	57%	43%	

		□増加	□不変	□減少
受注額 (新規契約 工事)	前年同期比	43%	57%	
	来期	14%	43%	43%

		□上昇	□不変	□低下
材料 仕入単価	前年同期比	86%		14%
	来期	86%		14%

		□好転	□不変	□悪化
採算 (経常利益)	前年同期比	57%	43%	
	来期	43%	57%	

		□黒字	□収支トントン	□赤字
採算(水準)	今期	14%	57%	29%

		□増加	□不変	□減少
従業員(臨時 パートを含む)	前年同期比	14%	57%	29%
	来期	14%	71%	14%

		□過剰	□適正	□不足
従業員(水準)	今期	57%	43%	

		□増加	□不変	□減少
引合い	前年同期比	43%	57%	

		□活発	□ふつう	□低調
引合い(水準)	今期	29%	71%	

		□増加	□不変	□減少
契約残	前年同期比	43%	57%	

		□好転	□不変	□悪化
業況	前年同期比	43%	57%	
	前期比	43%	57%	
	来期	43%	57%	
	来期(今期比)	57%	43%	

		□良い	□ふつう	□悪い
業況(水準)	今期	43%	57%	

		□長期化	□不変	□短期化
受取手形期間	前期比	83%		17%
	来期(今期比)	100%		

		□容易	□不変	□困難
長期資金 借入難度	前期比	83%		17%
	来期(今期比)	67%	33%	

		□容易	□不変	□困難
短期資金 借入難度	前期比	83%		17%
	来期(今期比)	67%	33%	

		□上昇	□不変	□低下
借入金利	前期比	67%	17%	17%
	来期(今期比)	67%	33%	

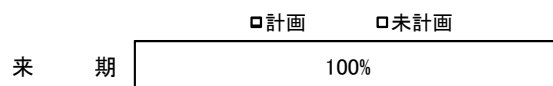
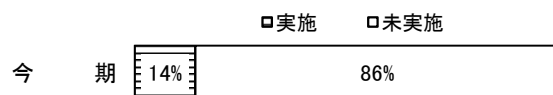
【説明】

建設業の業況は、前年同期比で「悪化」が57%（「不変」43%、「好転」0%）と半数を超えており、業況(水準)においても「悪い」が57%を占めるなど、依然として厳しい経営環境が続いている。背景には、材料仕入単価が前年同期比で「上昇」86%（来期見通しも86%）と高止まりを続けていることがあり、資材コストの高騰が企業経営を継続的に圧迫している。こうしたコスト高に対して十分な価格転嫁が進んでいない現状が影を落としており、採算(水準)においては「黒字」を確保できている企業はわずか14%にとどまり、「収支トントン」が57%、「赤字」が29%を占めている。

また、完成工事額(請負工事)が前年同期比で「減少」が71%にのぼり、受注額(新規契約工事)も「減少」が57%と伸び悩みが顕著である。来期見通しにおいても完成工事額の「減少」が29%（「増加」は14%にとどまる）と力強さを欠く中、従業員(水準)は今期「不足」が43%に達しており、工事量の停滞と深刻な人手不足という二重苦の様相を呈している。

こうした厳しい状況を踏まえ、来期（令和8年10月～12月期）の業況見通しにおいても「悪化」が57%、「不変」が43%を占め（「好転」は0%）、来期の採算(経常利益)見通しも「悪化」が57%へ拡大するなど、先行きに対する懸念が強まっている。資金繰りに関しては現時点で「悪化」が14%～29%にとどまっているものの、来期見通しでは「悪化」が43%へ増加する見込みであり、利益確保に向けた厳しい事業環境と先行き不透明感は今後も継続するものと見られる。

◎新規設備投資



今期回答数	投 資 内 容	来期回答数
0%	土 地	0%
0%	建 物	0%
50%	建 築 機 械	0%
0%	車 両 ・ 運 搬 具	0%
0%	付 帯 施 設	0%
50%	O A 機 器	0%
0%	福 利 厚 生 施 設	0%
0%	そ の 他	0%

◎今期直面している経営上の問題点

問 題 点	割合	問 題 点	割合
大企業の進出による競争の激化	0%	取引条件の悪化	0%
新規参入業者の増加	5%	事業資金の借入難	5%
材料価格の上昇	24%	従業員の確保難	14%
材料の入手難	5%	熟練技術者の確保難	0%
人件費の増加	0%	下請業者の確保難	10%
材料費・人件費以外の経費の増加	5%	官公需要の停滞	5%
請負単価の低下・上昇難	10%	民間需要の停滞	19%
下請単価の上昇	0%	その他	0%
金利負担の増加	0%		

小 売 業 (令和8年7月～9月期)

※前年同期比(R7年7月～9月期)に比べて
前期比(R8年4月～6月期)に比べて

来期(R8年10月～12月期)の見通し
今期(R8年7月～9月期)

売上額			
	増加	不変	減少
前年同期比	29%	14%	57%
前期比	29%	21%	50%
来期	29%	36%	36%

客単価			
	上昇	不変	低下
前年同期比	29%	43%	29%
前期比	29%	50%	21%
来期	36%	43%	21%

客数			
	増加	不変	減少
前年同期比	21%	29%	50%
前期比	21%	29%	50%
来期	29%	29%	43%

資金繰り			
	好転	不変	悪化
前年同期比	57%	43%	
前期比	57%	43%	
来期	7%	50%	43%

商品仕入単価			
	上昇	不変	低下
前年同期比	50%	43%	7%
来期	71%	14%	14%

商品仕入額			
	増加	不変	減少
前年同期比	29%	29%	43%
来期	43%	29%	29%

商品在庫数量			
	増加	不変	減少
前年同期比	43%	57%	
来期	14%	50%	36%

売上に対する商品在庫			
	過剰	適正	不足
今期	7%	79%	14%

採算(経常利益)			
	好転	不変	悪化
前年同期比	43%	57%	
来期	21%	36%	43%

採算(水準)			
	黒字	収支トントン	赤字
今期	7%	50%	43%

従業員(臨時パートを含む)			
	増加	不変	減少
前年同期比	100%		
来期	92%	8%	

従業員(水準)			
	過剰	適正	不足
今期	92%	8%	

業況			
	好転	不変	悪化
前年同期比	43%	57%	
前期比	7%	36%	57%
来期	7%	43%	50%
来期(今期比)	7%	43%	50%

業況(水準)			
	良い	ふつう	悪い
今期	21%	21%	57%

長期資金借入難度			
	容易	不変	困難
前期比	85%	15%	
来期(今期比)	85%	15%	

短期資金借入難度			
	容易	不変	困難
前期比	85%	15%	
来期(今期比)	85%	15%	

借入金利			
	上昇	不変	低下
前期比	17%	83%	
来期(今期比)	8%	92%	

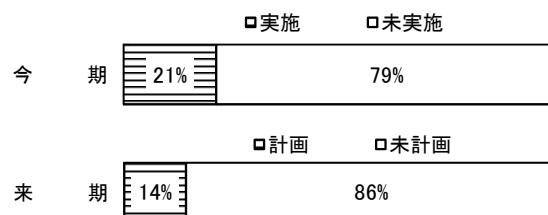
【説明】

小売業の業況は、前年同期比で「不変」が43%、「悪化」が57%（「好転」は0%）と厳しい状況が続いている。背景には物価高や消費マインドの冷え込みに伴う客数の伸び悩みがあり、今期の客数は前年同期比で「減少」が50%、売上額も「増加」が29%、「不変」が14%にとどまり、「減少」が57%に達している。

さらに、商品仕入単価は前年同期比で「上昇」が50%、来期見通しでは「上昇」が71%とさらなるコスト高が見込まれ、経営の大きな圧迫要因となっている。こうした客数減少と仕入コスト上昇の二重苦により、採算(水準)で「黒字」を確保できている企業はわずか7%にとどまり、「収支トントン」が50%、「赤字」が43%を占める。

来期(令和8年10月～12月期)の業況見通しも「悪化」が50%、「不変」が43%にのぼり、改善を見込む企業（「好転」7%）は少数で慎重な姿勢が強まっている。資金繰りに関しても現時点・来期見通しともに「悪化」が43%と高水準で横ばいとなる中、商品在庫の適正化やコスト管理の徹底など、利益確保に向けた厳しい事業環境は今後も継続するものとみられる。

◎新規設備投資



今期回答数	投資内容	来期回答数
0%	土 地	0%
33%	店 舗	20%
33%	販 売 設 備	0%
0%	車 両 ・ 運 搬 具	20%
33%	付 帯 施 設	20%
0%	O A 機 器	20%
0%	福 利 厚 生 施 設	0%
0%	そ の 他	20%

◎今期直面している経営上の問題点

問 題 点	割合	問 題 点	割合
大型店・中型店の進出による競争の激化	6%	販売単価の低下・上昇難	9%
同業者の進出	0%	仕入単価の上昇	12%
購買力の他地域への流出	12%	金利負担の増加	3%
消費者ニーズの変化への対応	9%	代金回収の悪化	3%
店舗の狭隘・老朽化	3%	事業資金の借入難	3%
駐車場の確保難	3%	従業員の確保難	3%
商品在庫の過剰	0%	需要の停滞	9%
人件費の増加	9%	その他	6%
人件費以外の経費の増加	12%		

サービス業 (令和8年7月～9月期)

※前年同期比(R7年7月～9月期)に比べて
前期比(R8年4月～6月期)に比べて

来期(R8年10月～12月期)の見通し
今期(R8年7月～9月期)

売上(収入)額			
□増加 □不変 □減少			
前年同期比	29%	43%	29%
前期比	43%	29%	29%
来期	29%	57%	14%

客単価			
□上昇 □不変 □低下			
前年同期比	14%	71%	14%
前期比	86%	14%	
来期	86%	14%	

利用客数			
□増加 □不変 □減少			
前年同期比	14%	71%	14%
前期比	29%	43%	29%
来期	14%	71%	14%

資金繰り			
□好転 □不変 □悪化			
前年同期比	14%	57%	29%
前期比	14%	57%	29%
来期	71%	29%	

仕入単価(材料等)			
□上昇 □不変 □低下			
前年同期比	100%		
来期	86%	14%	

採算(経常利益)			
□好転 □不変 □悪化			
前年同期比	14%	43%	43%
来期	14%	29%	57%

採算(水準)			
□黒字 □収支トントン □赤字			
今期	29%	57%	14%

従業員(含臨時・パート)			
□増加 □不変 □減少			
前年同期比	50%	50%	
来期	83%	17%	

従業員(水準)			
□過剰 □適正 □不足			
今期	67%	33%	

業況(自社)			
□好転 □不変 □悪化			
前年同期比	29%	29%	43%
前期比	29%	29%	43%
来期	14%	57%	29%
来期(今期比)	29%	29%	43%

業況(水準)			
□良い □ふつう □悪い			
今期	29%	43%	29%

長期資金借入難度			
□容易 □不変 □困難			
前期比	80%	20%	
来期(今期比)	80%	20%	

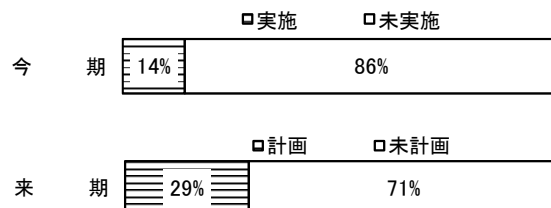
短期資金借入難度(含手形割引)			
□容易 □不変 □困難			
前期比	80%	20%	
来期(今期比)	80%	20%	

借入金利			
□上昇 □不変 □低下			
前期比	40%	60%	
来期(今期比)	20%	60%	20%

【説明】

サービス業の業況は、前年同期比で「悪化」が43%と「好転」の29%、「不変」29%を上回っており、業況(水準)においても「悪い」が29%、「ふつう」が43%と、依然として楽観視できない状況にある。背景にはエネルギー価格の高騰や人件費上昇をはじめとするコスト負担の増加があり、事実、今期の仕入単価(材料等)は前年同期比で「上昇」が100%とすべての企業でコスト高に直面している。売上(収入)額については前年同期比で「増加」が29%、「不変」が43%、「減少」が29%にとどまり、客単価や利用客数の伸び悩み(ともに前年同期比「不変」が71%)と仕入コスト高の重石が企業経営に影を落としている。こうした収益環境を反映し、採算(経常利益)においては前年同期比で「不変」と「悪化」がそれぞれ43%を占め、採算(水準)でも「収支トントン」が57%、「赤字」が14%、「黒字」は29%)となり、従業員の「不足」感(33%)も抱える中で利益確保に向けた厳しい経営環境が続いている。しかし、来期(令和8年10月～12月期)の業況見通し(前年同期比)においては「好転」が14%、「不変」が57%、「悪化」が29%となっており、今期に比べて悪化割合が低減するなど最悪期を脱しつつある動きも見られる。資金繰りに関しては来期見通しで「不変」が71%と一定の落ち着きを見せているものの、仕入単価については来期見通しでも86%が「上昇」と見込んでおり高止まりが予想される。さらに来期の採算見通しでは「悪化」が57%へ増加していることから、高コスト構造による利益圧迫が強く懸念され、先行きに対する慎重な姿勢は依然として崩せない状況にある。

◎新規設備投資



今期回答数	投 資 内 容	来期回答数
0%	土 地	0%
50%	建 物	67%
50%	サ ー ビ ス 設 備	33%
0%	車 両 ・ 運 搬 具	0%
0%	付 帯 施 設	0%
0%	O A 機 器	0%
0%	福 利 厚 生 施 設	0%
0%	そ の 他	0%

◎今期直面している経営上の問題点

問 題 点	割合	問 題 点	割合
大企業の進出による競争の激化	11%	事業資金の借入難	0%
新規参入業者の増加	0%	従業員の確保難	5%
利用者ニーズの変化への対応	11%	熟練従業員の確保難	0%
店舗施設の狭隘・老朽化	11%	需要の停滞	0%
人件費の増加	16%	その他	5%
人件費以外の経費の増加	0%		
利用料金の低下・上昇難	11%		
材料等仕入単価の上昇	32%		
金利負担の増加	0%		

「業況(自社)」の背景について各企業の所感

業況(自社)の背景について感じておられることを尋ねたところ、

「原材料は必要量だけを仕入れ、支払いを分散すれば資金繰りも楽になるが、終わらない原材料価格の高騰や一部不足となっている原材料もあり、先になって手に入らないと困るので、今必要でなくても仕入れなければならず在庫が過剰気味」(製造業)

「物価高騰により重要が減少している」(製造業)

「景気低迷が続き、先行きが見えない」(製造業)

「作業依頼の減少が続いています」(建設業)

「コロナ禍以降、消費者の購入志向が節約志向へと変化し、

また物価上昇や原材料価格の高騰が大きく経営に影響を与えている」(小売業)

「今期の売上は予想以上で、このまま暑くなければ前年より黒字になる。

値上げしたがそれほど影響はなかった」(小売業)

「酒屋として地元の酒を中心に販売してきたが、酒造会社がなくなり困っている」(小売業)

「利用料金を上げていかなければならないが、どのタイミングで行うか検討している」(サービス業)